

銀行名	北越銀行
タイトル	A B Lを活用した再生可能エネルギー事業への参入支援
取組み内容	<p>【 動 機 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創業 130 年の地元老舗総合商社である A 社は、将来の新規中核業務への参入を企図していた。 ・ 東日本大震災の発生により、安全な代替電源へのシフトが加速する中で、自然との共生を図るクリーンエネルギー創造事業は当社にとっても将来の財産であり、また普及が遅れている新潟県での取組みは、企業イメージの大幅な良化に繋がるとの経営判断から、太陽光発電事業への参入（出力 2 メガ）を決定した。 <p>【 取組み内容 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本事例において当行は、当行と顧客紹介（ビジネスマッチング）にかかる包括業務を締結している大手ハウスメーカーとの協働にて、事業性・採算性および効率的な発電候補地等の計画立案段階から支援を行った。 ・ また、事業用土地は、賃貸借によるもので担保設定が困難であることから、第三者対抗要件を具備したうえで B 電力会社への売電債権に対して債権譲渡担保契約を締結し、融対物件である太陽光パネルおよび付帯設備については、集合動産譲渡担保権を設定のうえ取扱うこととした。 ・ 本事例は、社会貢献の一環としてエネルギー持久力向上を A 社所在地区から発信し、地球温暖化対策、地域雇用の創出と産業育成に貢献することで社業の更なる発展に繋げていきたいという理念からの取組みであり、地域金融機関として全面的な支援を実施した。 <p>【 効 果 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A 社では将来にわたる安定的かつクリーンなエネルギーの供給や地域貢献・環境問題への積極的な取組みをおこなったとして、企業イメージの良化に繋がった。 ・ 当行としても、本件取扱いにより培ったノウハウを活かし、太陽光発電事業を大規模（メガソーラー級）・中規模・小規模（50KW 未満）等のセグメントに分割し、推進していくことを検討している。 ・ また、企業の事業フロー（事業ライフサイクル）を一体として把握し、事業価値全体を担保価値とみなした A B L の取組みを、今後強化していきたいと考えている。

銀行名	北越銀行
タイトル	海外販路開拓支援
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元老舗の食品加工メーカーであるA社は、新潟県内外のデパート、ホテル等に自社の製品を販売してきたが、国内市場の縮小を背景に売上は年々減少していた。 ・ こうしたなか、海外の日本料理レストラン（地元資本）がA社の製品に興味を示し、販売条件等について具体的な問い合わせがあった。 ・ A社社長は販路拡大の好機ととらえ、積極的に取引をおこないたいと考えていたが、A社はこれまで海外企業との取引経験がなく、貿易業務に関する実務や取引上の留意点等について、当行に相談を持ち込んだ。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当行は本部と営業店が連携のうえ、以下の支援を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> - 当行作成の貿易実務入門資料をもとに、国際商取引の基本や貿易代金決済、リスク回避の方法および貿易保険の概要等について説明した。 - 海外企業からの問い合わせ内容について整理するとともに、商談関係書類の作成や決済スキームの検証などで実務支援をおこなった。 - 輸出港までの輸送業務については、当行提携の物流会社を紹介し（ビジネスマッチングの活用）物流会社担当者との同行で、具体的な手続の説明や複数会社の運送条件の比較等をおこなった。 - 当行主催の食品輸出セミナーおよびJETRO輸出セミナーを案内するとともに、海外マーケットや食品嗜好・習慣等の情報を提供した。 <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商談の結果、海外企業から製品の注文を受け入れ、初回の相談からおよそ半年後に輸出取引を開始した。 ・ A社は国内販売態勢を維持していくとともに、海外取引についても、経営上の重要な柱と位置づけ、継続して取り組んでいくこととしている。

銀行名	北越銀行
タイトル	トキ保護活動への取組み
取組み内容	<p>【 動 機 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当行では、環境問題に対する取組みの一環として、新潟県の県鳥で国際保護鳥でもある「トキ」の野生復帰や生息環境の復元にむけた各種事業を支援している。 <p>【 取組み内容 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当行では昭和 43 年から毎年、新潟県が運営する「トキ愛護募金」に当行行員の募金とあわせて寄付をおこなっている。 (※ 平成 25 年度寄付金実績：600 千円) ・ また、投資信託「トキ応援ファンド」と「トキ子育て応援ファンド」を販売し、これら 2 商品から得られる信託報酬の一部を「新潟県トキ保護募金」に寄付している。(※ 平成 25 年度寄付金実績：3,148 千円) ・ 新潟県佐渡市でおこなわれている「佐渡トキ保護ボランティア」に当行行員が参加し、トキの餌場となる水田の整備等をおこなうことで、トキの生育環境復帰にむけた取組みをおこなっている。 <p>【 取組みの効果 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トキ保護活動への寄付金については、新潟県を通じてトキの野生復帰事業など、トキの保護育成に関する活動全般に有効活用されている。 ・ 新潟県の県鳥であるトキの保護育成については、県民の注目度も高く、佐渡市をはじめとした観光の振興にもつながっており、当行に長年にわたるトキ支援活動については、新潟県からも一定の評価を得ている。